

# 第59回学術研修会

## ベーシックセミナー

2018年9月2日(日) 9:50~16:40 岩手医科大学歯学部 6階講義室

タイムスケジュール

10:00~12:00	午前の部
12:15~13:00	昼の部
13:15~14:45	午後の部 1
15:00~16:30	午後の部 2

参加費 (昼食代含)

歯科医師	4,000 円
学内歯科医師	3,000 円
コデンタルスタッフ (歯科医師は除く)	2,000 円

### ～スキルアップ歯科臨床 ポイントを押さえよう～

めまぐるしく進歩する歯科医療において、変わらぬ診療の基本要件を再確認し、治療に直接役立つ臨床の知識と技術を基礎から習得するためのセミナーです。

#### 対象

卒後数年から開業前後の先生、または更なる臨床のステップアップを目指す先生

午前の部

#### 審美歯科 基本のき

おおかわ まさゆき  
大河 雅之 先生 東京都開業、SJCD 東京支部副会長

現在、審美修復治療はバイオメテック (生体模倣) アプローチという考え方が浸透し、できるだけ歯の構造を保存する接着修復が世界的に基本となってきた。つまり現段階では歯の硬組織と歯髄の再生が困難である以上残存する歯の構造と組織を温存し天然歯固有の優位性を最大限に生かすことが修復治療の目的となる。また顔貌から抽出する治療計画立案は審美修復治療には必須の基本のきである。歯や歯列の診査の前に、顔貌や口唇と歯の関係の審美分析を行うことは必須となっている。これらについて臨床症例を用いてお話ししたい。さらに後半では、最新のデジタルテクノロジーの応用や、マイクロスコープの有効性など審美修復治療の最前線の症例も供覧したい。



昼の部

#### CAD/CAM 光学スキャナー 基本のき

おおだいら ちかゆき  
大平 千之 先生 岩手医科大学非常勤講師

近年、デジタルテクノロジーの進歩により歯科医療は大きく発展し、患者のもつ多様な要求に応えることが可能となってきました。歯冠補綴もオールセラミッククラウンの応用範囲の拡がりとともに大きな変化をみせ、セラミック修復を支える CAD/CAM システムが急速に進展しました。CAD/CAM システムは、主に作業用模型を計測するデスクトップ型スキャナーを中心に発展してきました。デスクトップ型スキャナーにより製作過程の効率化が図られる一方、口腔内を直接計測する光学印象の有用性が高まっています。講演では、歯冠補綴ならびに欠損補綴におけるデジタルワークフローの基礎的情報を提示するとともに、今後の CAD/CAM システムの役割について触れたいと思います。



午後の部 1

#### 口腔外科 基本のき その① 抜歯を中心に

やぎまさあつ  
八木 正篤 先生 岩手県立中央病院 歯科口腔外科長

口腔外科というと、顎変形症や頸部廓清を含めた口腔がんの手術などの大きな手術を中心に行っていると思われるが、大学の附属病院の口腔外科でも最も症例数が多いのは抜歯である。病院の口腔外科では埋伏歯抜歯が多いが、普通抜歯は一般開業医でも最も多く行われている歯科治療のひとつである。しかし、普通抜歯と思える症例の中にも骨癒着や根の脆弱により、抜歯が困難な場合も少なくない。また、慎重に対処しないと、上顎洞迷入や止血困難など重篤な事態を招くこともある。このセミナーでは口腔内の状態や X 線所見から抜歯の困難性を予想する方法や、抜歯の基本技術について説明する。



午後の部 2

#### 有床義歯 基本のき その① 印象採得

えんどう よしき  
遠藤 義樹 先生 岩手医科大学歯学部臨床教授

本講演では、実際に臨床に携わっている初学者を対象に有床義歯の基本事項を整理してお話する予定です。今回はその①として印象採得をテーマと致します。有床義歯の印象採得を行うにあたり、まずは対象とするのが可動性の組織であるということを十分に頭の中で整理しておく必要があります。歯冠修復処置で行われる印象採得とは異なった概念であることを再度意識してください。有床義歯印象の目的は、脱離に対する抵抗としての維持の増強、機能圧に対する抵抗としての支持面の増大、咬合圧による顎堤上の変位に抵抗する安定性の増加、顎顔面の審美的修復、床下支持組織の保護が挙げられます。これらの目的を満たす印象採得手法の基本を解説します。

